

2012年3月期 第2四半期

決算説明会

株式会社ツムラ

代表取締役社長

芳井 順一

2011年11月11日

2012年3月期 第2四半期

決算の概要

決算の概況(連結)

東日本大震災の影響を受けた決算

(単位:百万円)

	計 画	当第2Q	計 画 比		前 同 比	
			金 額	増減率	金 額	伸長率
売上高	48,300	45,862	△2,437	△5.0%	487	1.1%
営業利益	10,900	9,831	△1,068	△9.8%	19	0.2%
経常利益	11,000	9,911	△1,088	△9.9%	92	0.9%
当期純利益	6,200	5,141	△1,058	△17.1%	△771	△13.1%

	計 画	当第2Q	前第2Q
営業利益率	22.6%	21.4%	21.6%
配当 (1株当たり配当金)	30円	30円	28円

決算の概要(計画比)

(単位:百万円)

	計画比		要因
	金額	増減率	
売上高	△2,437	△5.0%	※次頁にて説明
売上原価	△632	△4.3%	売上原価率:30.6%⇒30.9%
販管費	△735	△3.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・経費削減(変動費を除く) 2億円 ・一部期ズレ 2.7億円
営業利益	△1,068	△9.8%	—
経常利益	△1,088	△9.9%	—
当期純利益	△1,058	△17.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・投資有価証券評価損 6.7億円 ・災害による損失 2.9億円

東日本大震災後のMR活動

■ 茨城工場は5月10日に全面稼働

第1四半期

■ ただし、流通在庫が平準化したのは6月下旬

【震災後～6月下旬】

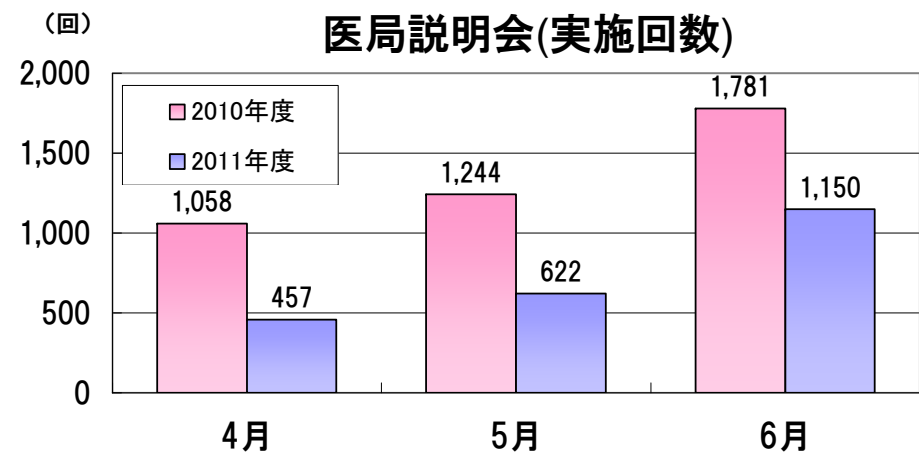
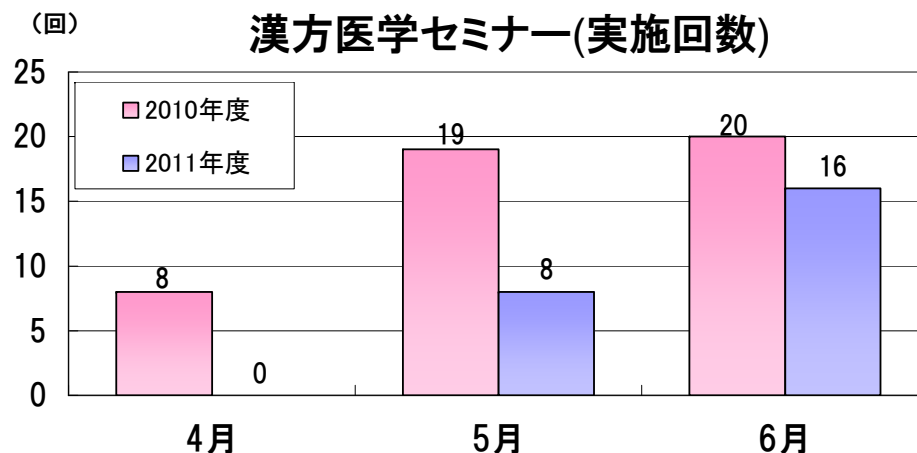
◎処方日数制限(長期投与から短期投与へ)のお願い

90日・60日・30日 → 30日・14日

◎連日、医療機関へお詫びと納品情報提示

茨城工場の復旧状態と生産状況

◎漢方医学セミナー、医局説明会等の自粛 など



東日本大震災後のMR活動

【7月～9月】

第2四半期

◎処方日数制限解除の説明

◆出荷制限に関するお詫びと御礼

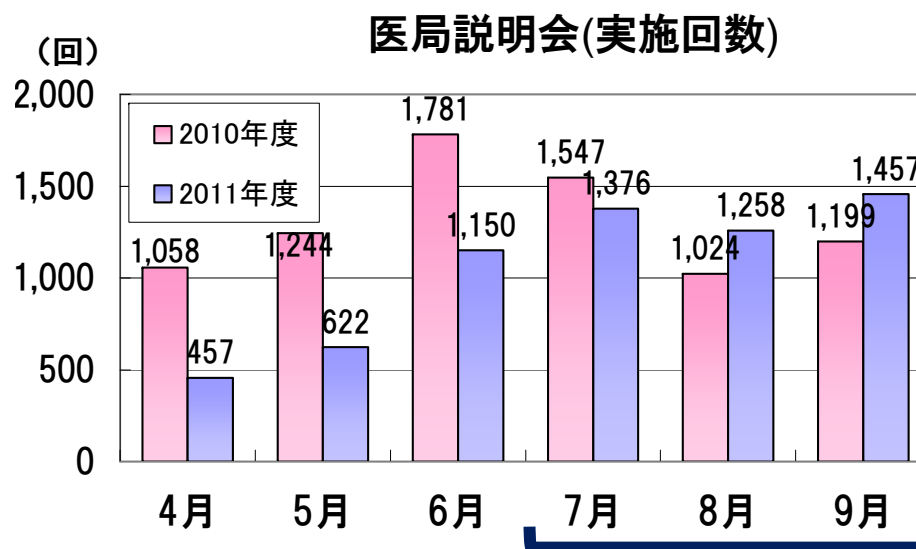
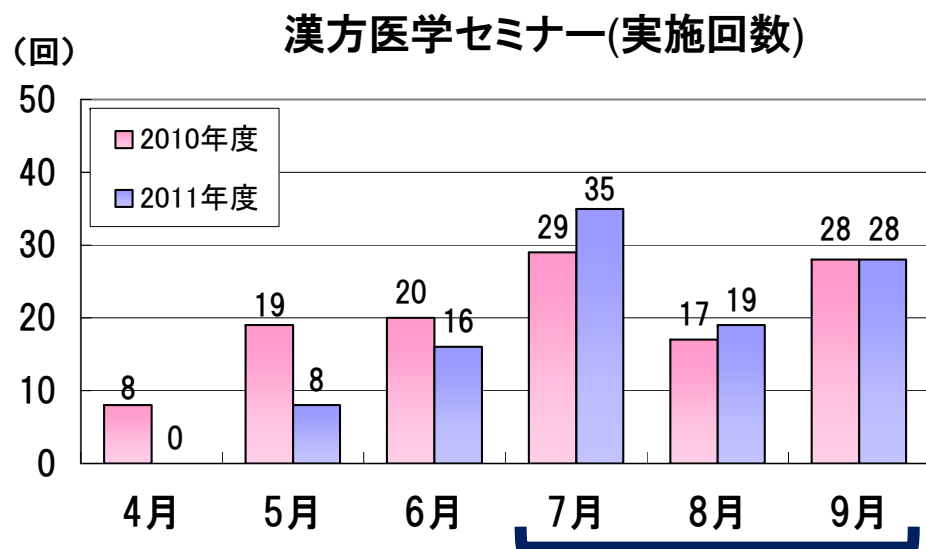
・医療機関・調剤薬局・代理店など

◎処方ストップ医師のフォロー

◎他社に切り替わった処方の回復

◎漢方医学セミナー、医局説明会等の再開 など

■被災地(施設)の売上減



月次売上高(実売)の回復トレンド

計画水準からみた、月次売上高(実売)の
マイナス幅の回復トレンド

4-6月平均

当初 78.5億円
↓
実績 71.3億円

▲7.2億円/月

状況説明中心
の営業活動

7-9月平均

当初 79.2億円
↓
実績 73.4億円

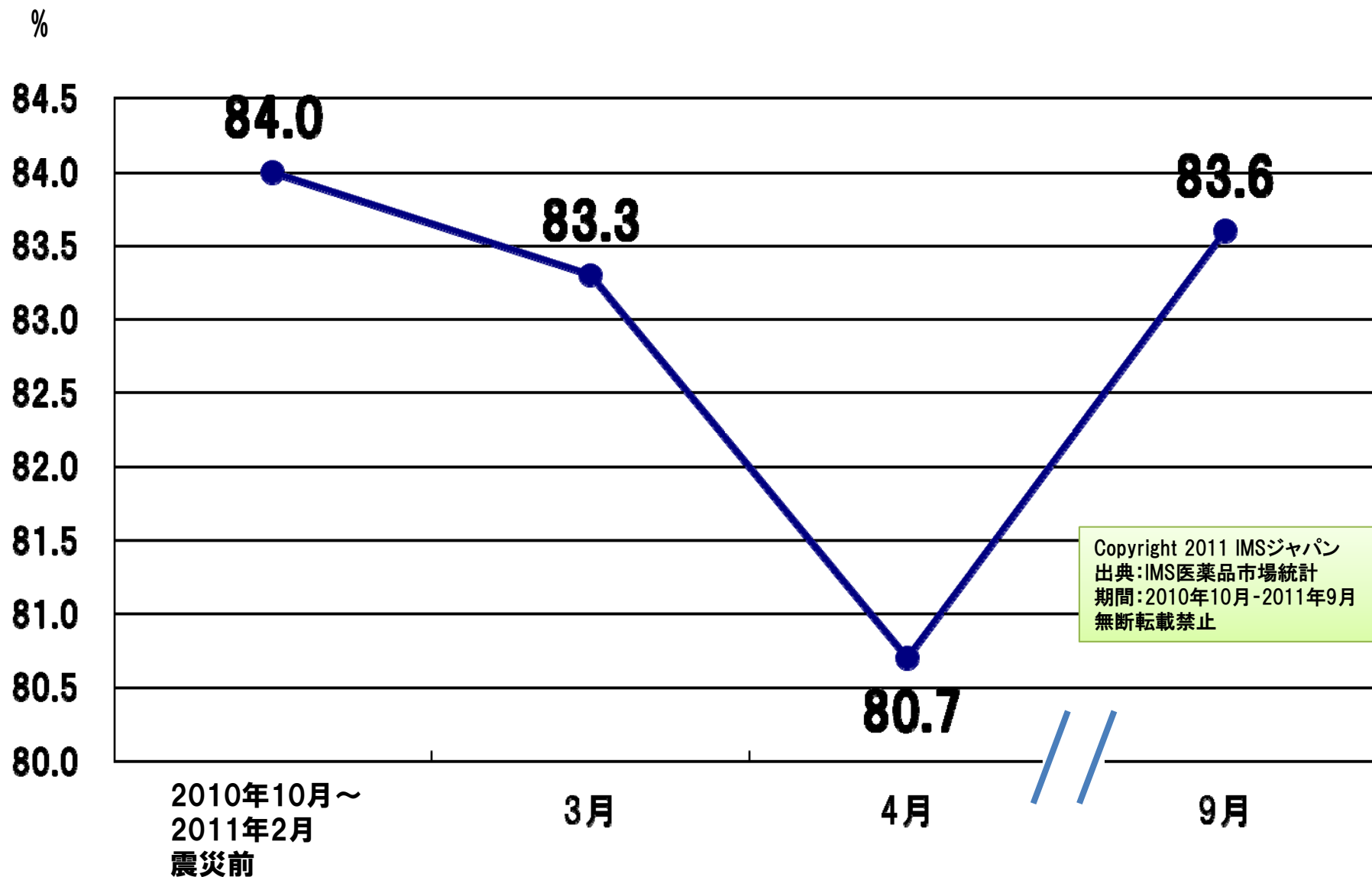
▲5.8億円/月

マイナス幅縮小

回復へ向けた
営業活動

当初の水準
数量9.4%
(金額8.6%)

ツムラ医療用漢方製剤 売上高シェア



2012年3月期 業績予想

2012年3月期 下期業績予想

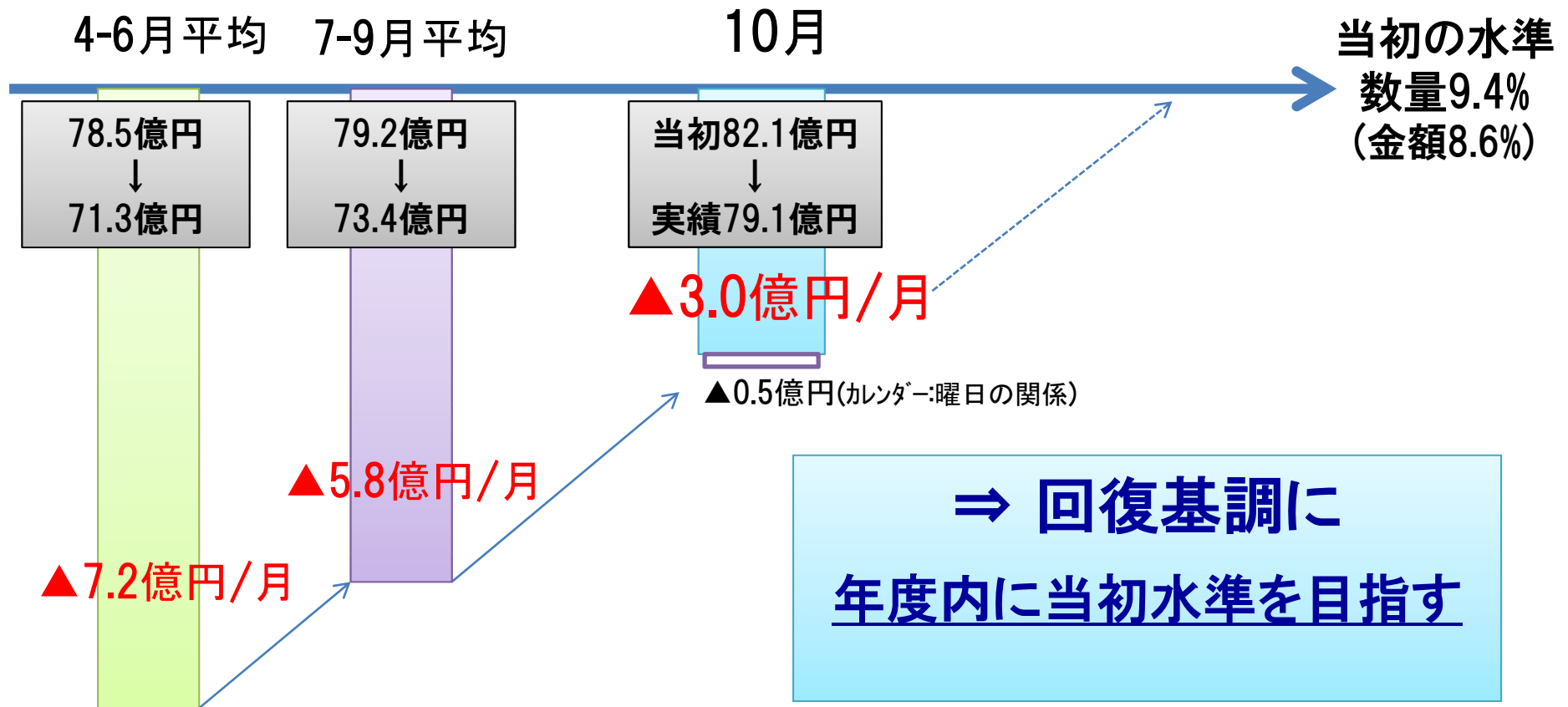
下期(10-3月)の分析-当初計画比

(単位:百万円)

	修正計画	当初計画比	要因
売上高	50,737	△1,362	※次頁にて説明
売上原価	16,132	△667	・売上原価率:32.2%⇒31.8% 未実現利益など
販管費	22,735	△64	・上期からの期ズレ 2.7億円 ・経費削減(変動費を除く) 2億円 ⇒上期2億円と合わせて4億円/年 ・営業施策に関しては必要な予算を投じて、早期のトレンド回復を目指す。
営業利益	11,868	△631	-
経常利益	11,988	△611	-
当期純利益	7,058	△341	-

月次売上高(実売)の回復トレンド

計画水準からみた、月次売上高(実売)の
マイナス幅の回復トレンド



下期の営業施策

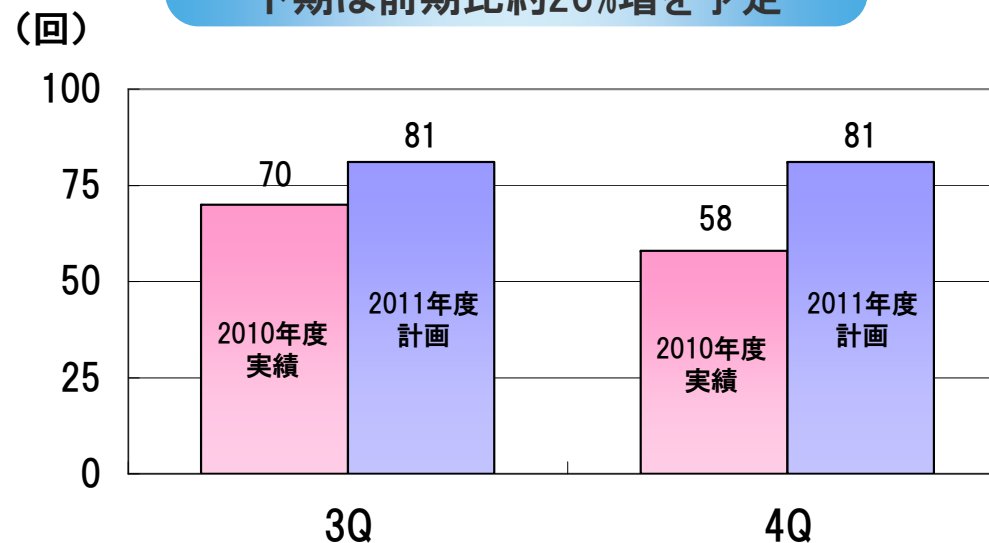
下期の営業施策

◎本来のMR活動に加えて、

- ・漢方医学セミナーの積極開催(新規獲得)
- ・処方が止まっている医師のフォロー
- ・他社に切り替わった処方の回復
- ・未面談医師への訪問強化 など

卒後漢方医学セミナー 開催計画

下期は前期比約26%増を予定



2012年3月期 通期業績予想

(単位:百万円)

通期業績予想	当初計画	修正計画	当初計画比		前同比	
			金額	増減率	金額	伸長率
売上高	100,400	96,600	△3,800	△3.8%	1,821	1.9%
営業利益	23,400	21,700	△1,700	△7.3%	146	0.7%
経常利益	23,600	21,900	△1,700	△7.2%	174	0.8%
当期純利益	13,600	12,200	△1,400	△10.3%	△745	△5.8%

	当初計画	修正計画	前期
営業利益率	23.3%	22.5%	22.7%
ROA (総資産営業利益率)	16.1%	15.0 %	15.6%
配当 (1株当たり配当金)	60円	60円	58円

たな卸資産

<在庫管理>

貸借対照表(B/S) - たな卸資産

第2四半期 たな卸資産が前期末比 45億円増加

	増加額	在庫ヶ月数		要 因
		前期末	当第2Q	
製 品 在 庫	15億円	約1.5ヶ月	約2.0ヶ月	①前期末、製品在庫減 (3月に震災出荷増:約7億円) ②震災後、在庫増へ (在庫積み増し、売上減)
仕 掛 品	1億円	約2.6ヶ月	約2.7ヶ月	—
原 材 料	29億円	約14ヶ月	約18ヶ月	①上海(SD工程)稼働へ向け た生薬の数量確保 ②一部生薬の単価増
たな卸資産	45億円	—	—	—

*在庫ヶ月数の算出

製品在庫、仕掛品=期末在庫÷1ヶ月分の売上原価

原材料在庫=期末在庫÷売上原価における生薬1ヶ月分の使用平均値

在庫管理

■製品在庫

震災以降、2ヶ月程度の在庫水準を検討している。

■生薬在庫

処方ごとの生産計画、種々のリスク等をふまえ、管理している。

■在庫管理

製品・仕掛品・原材料といった各在庫については、適正在庫を検証し、たな卸資産全体の中で、管理・コントロールしていく。

キャッシュュフローの使途

キャッシュフローの使途

営業キャッシュフローをふまえて、適宜、判断する。

営業キャッシュフロー

更なる成長に
向けた投資

◆設備投資

長期的な需要予測に基づき製造設備、
生薬倉庫等を増設。

⇒下期計画:販売状況をふまえ、適宜、見直す。(一部、半年程度の後ろ倒し)

有利子負債返済

◆返済

設備投資や配当等を勘案し、適宜、返済に
ついて判断する。

⇒下期計画:10億円。適宜、判断する。

株主還元

◆配当

設備投資や毎期の業績、配当性向等を
ふまえ、増配を基調に安定配当を目指す。

⇒期末配当予想:30円。基調を継続する。

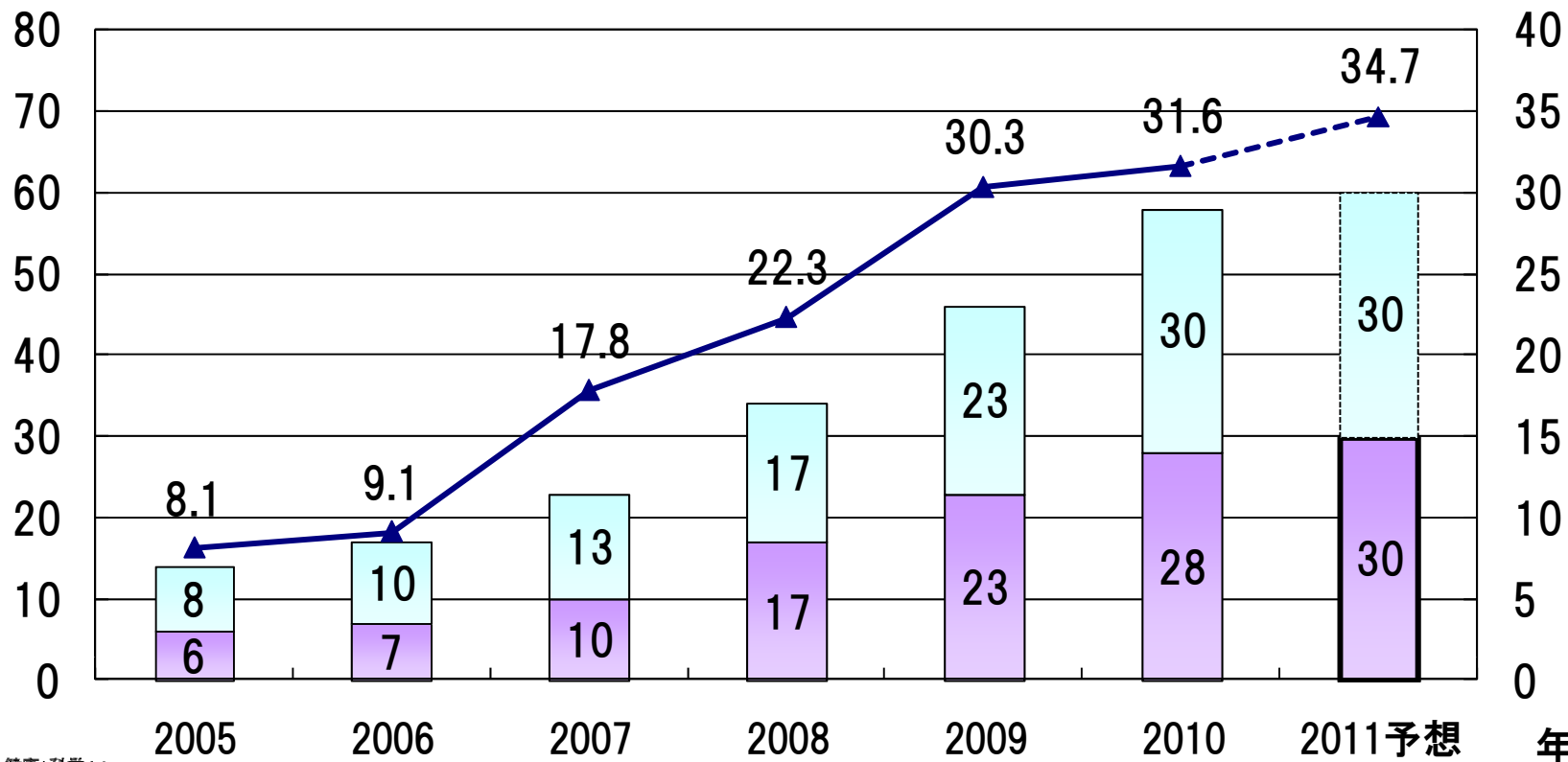
配当政策

【基本方針】

設備投資や毎期の業績、配当性向等をふまえ
増配を基調に安定配当を目指す。

配当
(円)

配当性向
(%)



TU-100 大建中湯の

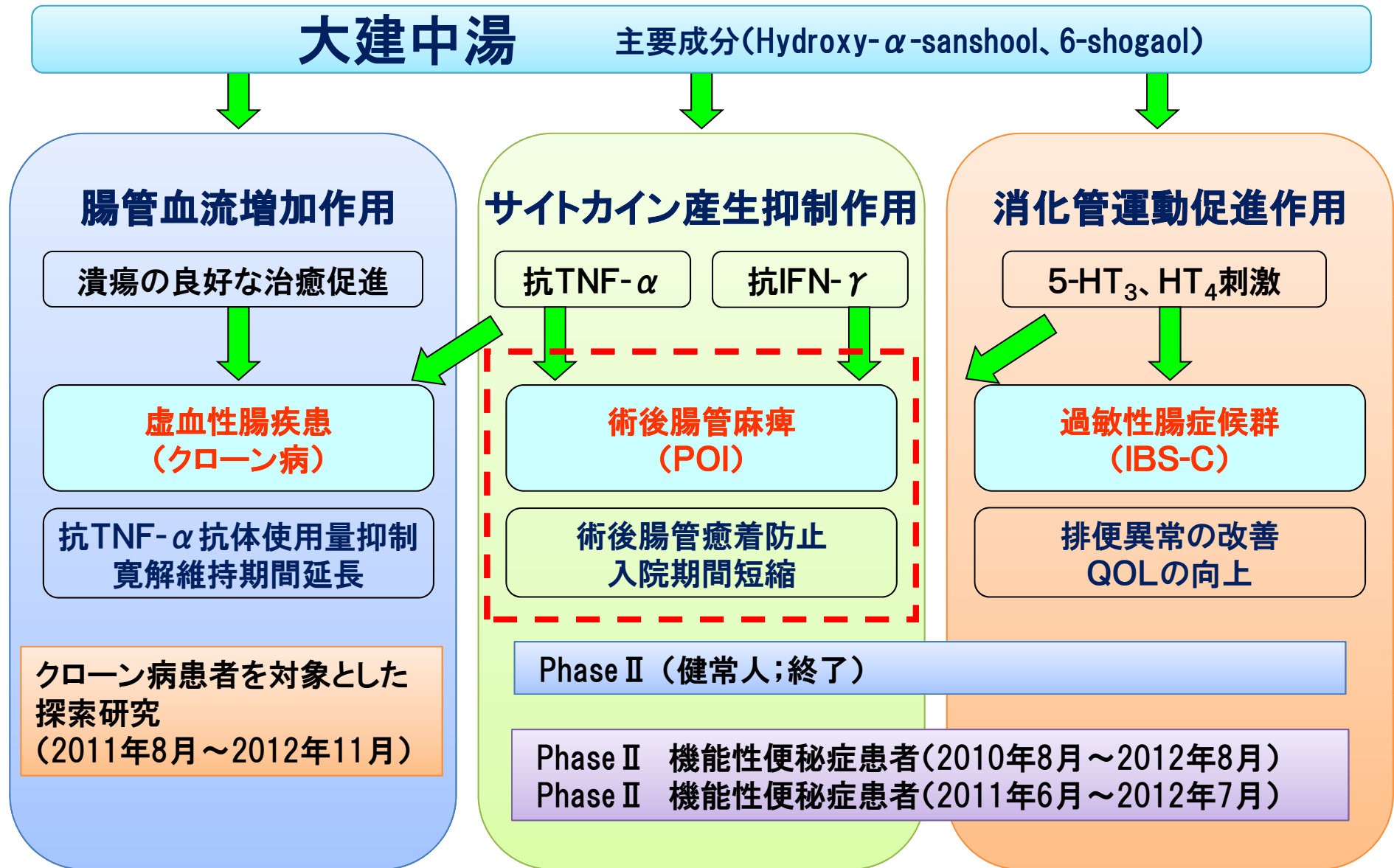
新たな治療疾患

＜クローン病＞

常務取締役
医薬営業本部長

田中典裕

TU-100 大建中湯の新たな可能性(開発対象疾患)



TU-100のクローン病治療薬としてのポジショニング

TU-100の位置づけ

寛解導入薬

重症例の病態を
沈静化させる
(ステロイド、免疫抑制剤
など)

重症患者18%
(約13万人)

寛解維持薬

再燃を防止し寛解期間を
延長させる
(有効な薬が無く、治療に
困っている)

中等症患者38%
(約28万人)

軽症患者44%
(約32万人)

共同開発先の選定: Phase-III開始時まで決定

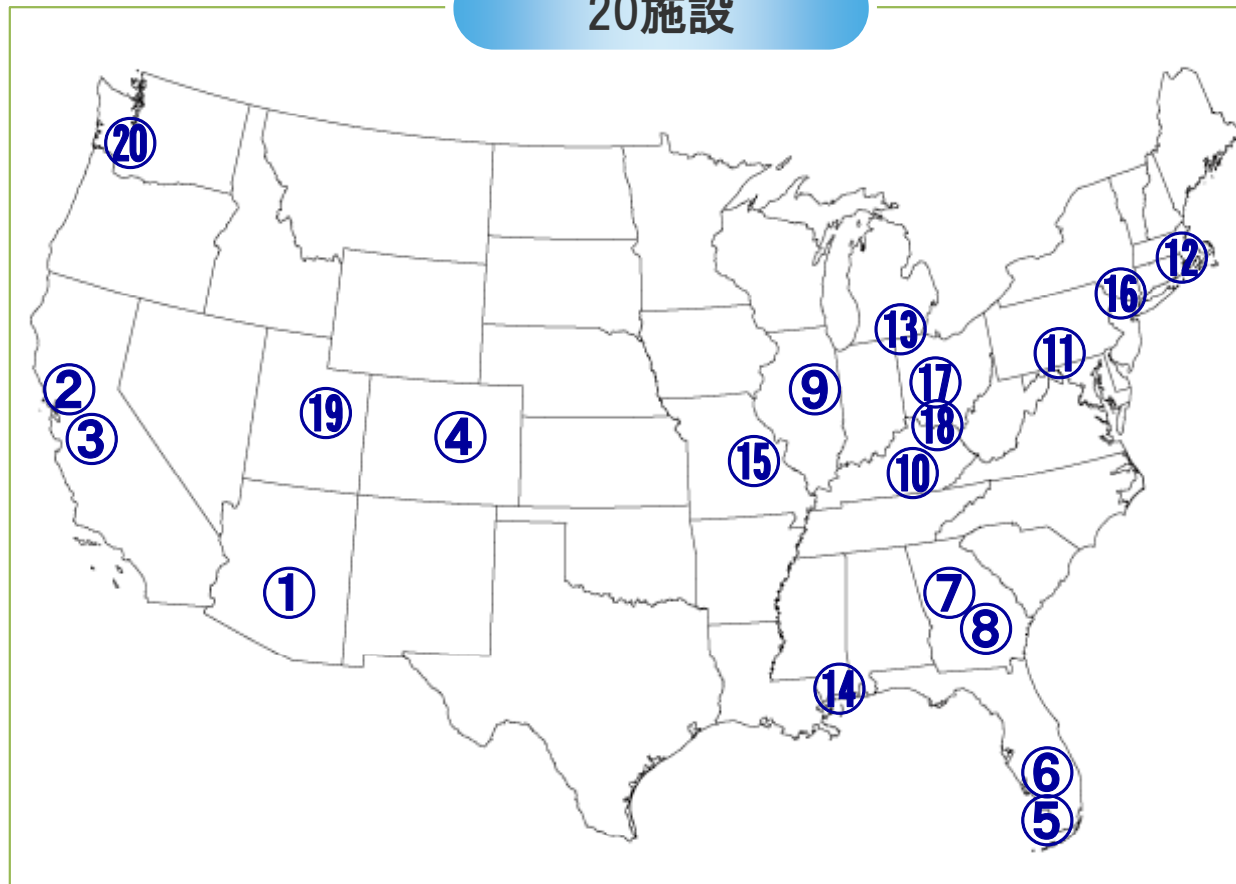
Early Phase- II プロトコール概要

項目	内容
試験タイトル	軽症から中等症のクローン病患者に対する大建中湯(TU-100)の無作為化二重盲検、プラセボ比較試験
目標例数	Placebo群:50例、TU-100(15g/日)群:50例
投与期間	8週間
施設数	20施設
開発期間	18ヶ月間(2011年8月～2013年2月) ※試験期間:2012年11月まで
有効性評価	①CDAI(クローン病活動性指数) ②IBDQ(炎症性腸疾患QOL質問票) ③CRP(炎症反応マーカー) ④便中カルプロテクチン(炎症反応マーカー)

臨床試験の実施設

臨床試験の施設は、全米を網羅している。

20施設



参 考

- ・漢方医学の確立
- ・育薬の推進

医療用漢方製剤 処方別売上高当第2四半期

順位	処方名	売上高(百万円)	増減率
1	<u>TJ-100</u> 大建中湯 Daikenchuto	4,055	4.3%
2	TJ-41 補中益気湯 Hochuekkito	2,967	△4.6%
3	<u>TJ-43</u> 六君子湯 Rikkunshito	2,529	1.9%
4	<u>TJ-54</u> 抑肝散 Yokukansan	2,298	23.8%
5	TJ-24 加味逍遙散 Kamishoyosan	1,826	1.0%
6	<u>TJ-107</u> 牛車腎気丸 Goshajinkigan	1,769	1.2%
7	TJ-68 芍薬甘草湯 Shakuyakukanzoto	1,731	3.8%
8	TJ-114 柴苓湯 Saireito	1,726	△0.2%
9	TJ-29 麦門冬湯 Bakumondoto	1,453	△6.3%
10	TJ-62 防風通聖散 Bofutsushosan	1,260	3.5%
-	<u>TJ-14</u> 半夏瀉心湯 Hangeshashinto	444	6.8%
医療用漢方製剤 129処方 合計		43,431	1.6%

漢方医学の確立

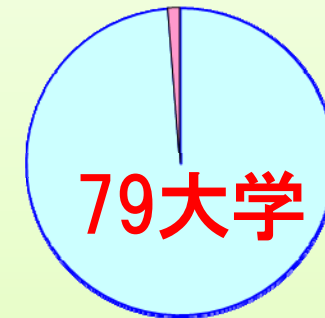
漢方医学教育の進捗

2011年9月末現在

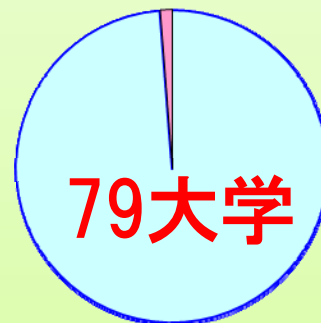
8コマ以上必修化



漢方外来



FD:大学主催の講師育成制度

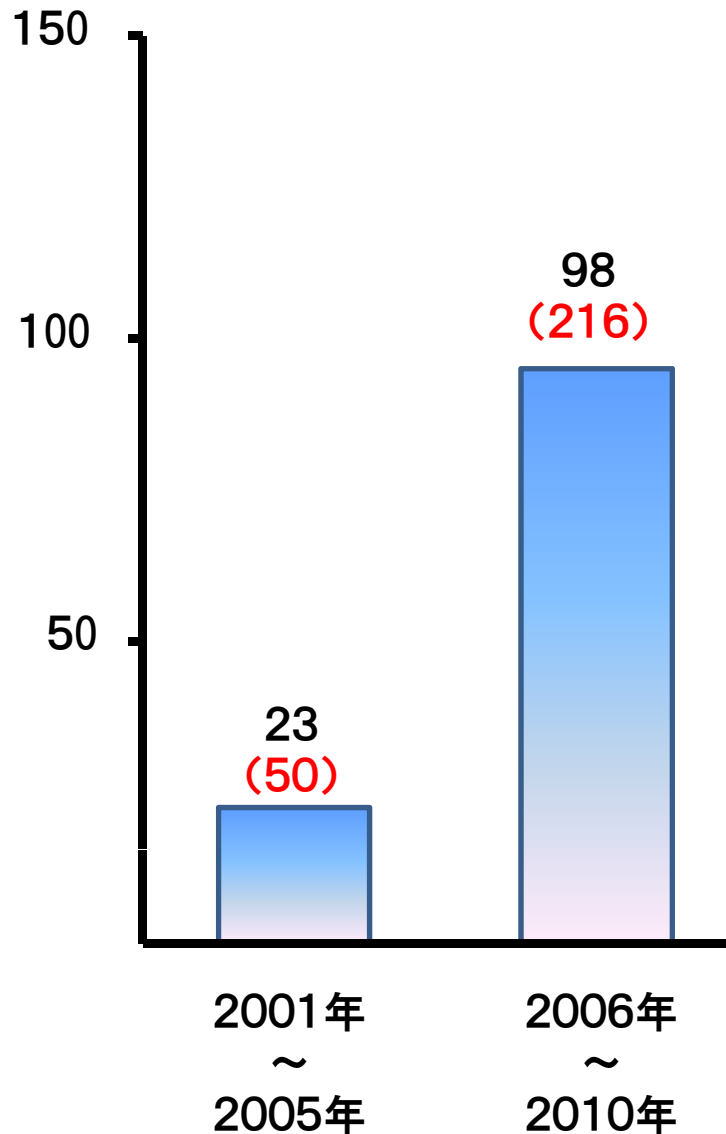


育薬処方でのDBT(二重盲検試験)実施状況

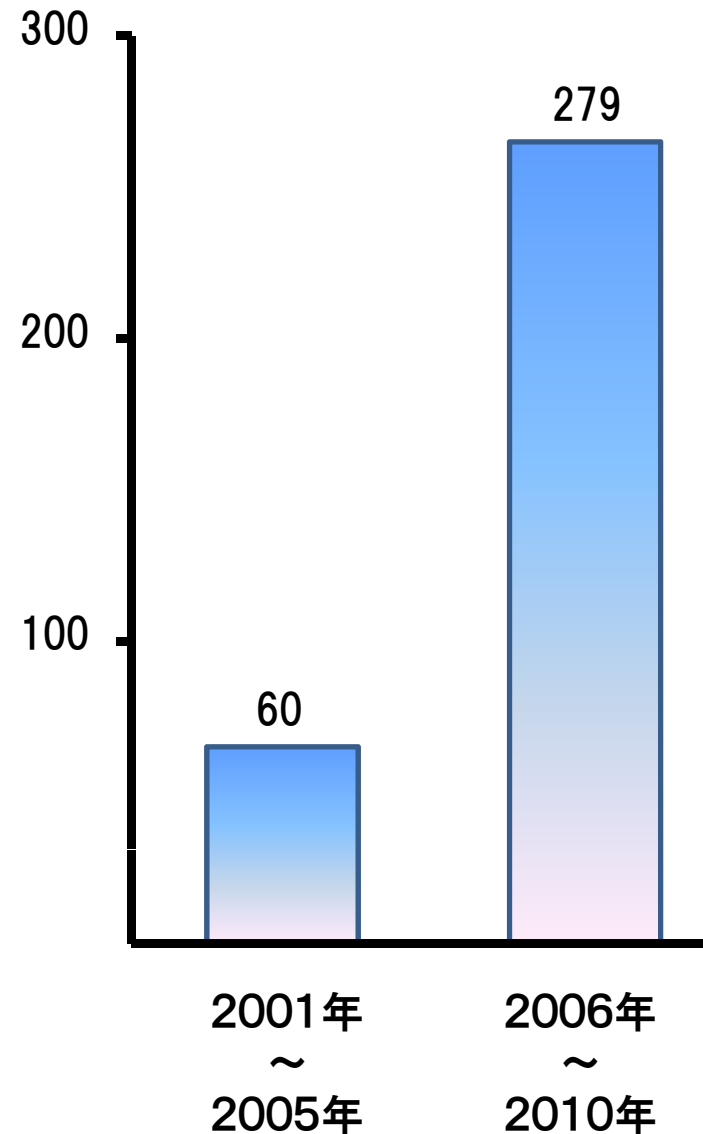
処方No	研究名称等	代表施設名 施設数等	エントリー 症例数	2009年度				2010年度				2011年度				2012年度				2013年度			
				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
TJ-100 DKT フォーラム	大腸班 (臨床薬理) 目標400例	北里大学 約50施設	386症例 (88症例) (2011.6月終了)	2009年1月～2011年6月																			
	肝外科班 目標200例	釧路労災 病院 約20施設	231症例 (2011.5.9. 集積終了)	2010年2月～2012年1月																			
	胃食道班 目標240例	大分大学 約30施設	73症例 2011.9	2011年1月～2012年12月																			
TJ-43	FD 目標430例	慶応大 科研費	-	2011年2月～2012年9月																			
	胃食道逆流症 目標240例	大阪市立大	-	2011年8月～																			
TJ-54	統合失調症 目標120例	島根大 科研費	-	2011年3月～2012年2月																			
	BPSD 目標140例	東北大 科研費	-	2011年2月～2013年3月 解析10月																			
TJ-107	GONE 目標80例	旭川医大	-	2009年5月～ 2010年10月																			
	GENIUS 目標310例	九州大 科研費	-	2010年10月～2013年3月																			
TJ-14	Hangesya-C 目標90例	大阪医療 センター	-	2010年10月～2012年9月																			
	Hangesya-G 目標90例	神奈川県立 がんセンター	-	2010年10月～2012年9月																			

育薬処方:EBM集積状況

【論文数・(インパクトファクター;累積)】



【国際学会発表数】



障がい者雇用

ツムラの障がい者雇用率(雇用への対応)

雇用の多様性

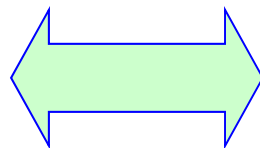
それぞれの業務に応じて必要な人材を雇用する。



てみるファーム<生薬栽培>

石狩市

 株式会社 **ツムラ**



農業生産法人
「てみるファーム」

生薬栽培に関する委託契約を締結した。
障がい者が生薬栽培に携われる機会を提供している。



社会福祉法人
「はるにれの里」



センキュウ



センキュウの植付



企業使命

漢方医学と西洋医学の融合により
世界で類のない最高の医療提供に貢献する

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社ツムラ
コーポレート・コミュニケーション室
IR推進グループ
TEL:03-6361-7101

注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。将来の予測等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。したがって、実際の業績等は予想値とは異なる結果となる可能性があります。

また、医薬品に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。